

し改革着実に

業振興へ特別決議

神奈川県は18日、秦野市文化会館で第69回県農協の組合員や役員ら約1000人が参加。3カ年計画の自己改革の完遂とかながわ農業の発展に尽くした組合員に感謝状を授け、自己改革の進展に尽くした組合員に特別決議を可決。JA運動の発展に尽くした組合員に特別決議を可決。JA運動の発展に尽くした組合員に特別決議を可決。

し合い、営農・経済事業の改革を基本に取り組みを進めていくことを確認した。

特別決議では、改革プランを着実に実践するとともに、政府に対し①J



あいさつする高桑会長（18日、神奈川県秦野市で）

女性部 らない存在だ。

J Aでは、部員らの教養習得や組織活動の活性化を目的に特設した部員を、特技者と併せて委嘱。2016年9月末現

活動支える“特技者”

神奈川県JA湘南女性グループ講師や趣味開拓

在、13人を特技者として登録している。約20年間務め、メンバーから信頼を集めている。

Aグループが自主・自立の協同組合として取り組んでいる自己改革を尊重し、支援すること②都市農業振興基本計画について

千葉の有機農業PR

東京で野菜や加工品で商談イベント

【ちば】東京・有楽町の東京国際フォーラムで第1回オーガニックライフスタイルEXPOが18日から始まった。千葉県内からも有機農業や団体が参加。オーガニックによる町づくりを進める木更津市からは、有機農業生産者等が農産物や加工品を出展し商談した。

同市からは、養鶏や有機農産物を生産する耕す木更津農場が卵やロールケーキを、グッチートレードイングは玄米ドーナツと、米発酵飲料「麹ぐると」を展示した。有機野菜の生産グループ、農

イル・カレッジ」でも、技術を広めてきた。

このほど開いた神田支部料理士の講習会では、長年料理の指導に当たってきた特技者の山田千枝子さん（85）が、部員12人に5品を教えた。山田さんは、身近な食材を使って、簡単に作ることをポイントにして、レシ

て、広く農業者の声を反映し、速やかに具体化すること③環太平洋連携協定（TPP）について十分な対策と十分な予算を確保すること―について要請を実施していくことを採択。実現に向けて組織の総力を上げることを確認した。

「組合員との徹底した話し合いを行い、地域密着組織としての農協のあるべき姿を追求することが重要だ」と話した。

農業祭出品の農産物を審査

さいたま市実行委【さいたま】さいたま市農業祭実行委員会は18日、同市北区見沼の市民

事組合法人さんぶ野菜ネットワークは小松菜など有機野菜、市原市の土壌菌農法研究所の石井一行所長は開発した微生物資材ナルナル菌を展示し商談した。

生産者マルシェでは、我孫子市で無農薬・無化学肥料野菜を販売する今村直美さん、細淵有里さんがキャベツやルッコラなどを並べて直売した。



木更津市の出展ブース（18日、東京都千代田区で）

都市農業を視察

東京都日野市の市議会議員や農業委員ら40人は18日、都市農業の現状を把握しようと市内の圃場（ほじょう）を訪れた。案内した生産者は区画整理で農地が減る現状や、最新のトマト栽培の

施設を紹介し、都市農業の役割を説明した。同市農業委員会と市議会が、市内農業への理解を深め、都市農業振興基本計画の地方計画を策定する上で役立てよう

東京都日野市農業委員会

「都市農業の振興が、農業振興の必要性を強調したい」と強調。増富正夫さんらが高齢の高さ手掛ける高さの稲作農家を視察した。

の森・見沼クタワーで、同農共進会を開いた。数704点の審査の結果、はじめ、さい同組合長賞、同組合長賞な点他、1等かせて205点審査は県さ



船橋産学給に

【千葉・いちい】市は18日、「米を食べて知わすて、学校する市立の小校、特別支援産米を使った実施した。Jは市内の学校飯給食拡大を。同イベントで地場産米を供給するのは。稲作農家を

定書は、遺産資源し、背後で工作してきた。日本政府は、その米国の代弁者になることが多く、いつも取り組みに後ろ向きな姿勢をとってきた。それが議定書・補足議定書への批准の遅れにならなってきた。

なぜこのように環境問題に、他方、これまで産業界や大企業の意向を優先するからである。それは企業を優先して農業を顧みない姿勢と共通である。

また、外国人技能実習期間について、全職種現行の「最長3年」から「最長5年」に延長。当面待遇を防止するための新たな監視機関を設ける。

小池知事は、安全性の検証が終わっていないことから「豊洲移転が確実」とはまだ言えない。アセス手続き後、移転するかどうか総合的に判断する」と述べた。

築地市場跡に整備予定で、20年東京五輪・パラリンピックの選手村と都心を結ぶ都道「環状2号」に関しては、大会までの地下トンネル建造を断念した。市場周辺の地上に片側1車線の暫定道路を通した上で、信号制御により渋滞を防ぐ代替案を提示。「大会運営に

環境影響評価（アセスメント）のやり直しを断念した。市場周辺の地上に片側1車線の暫定道路を通した上で、信号制御により渋滞を防ぐ代替案を提示。「大会運営に

政府・与党は2017年度税制改正で、市町村の森林整備財源に充てる全国共通の新税導入を議論する。今年4月時点で37府県と横浜市が「森林環境税」などとして独自に課税しており、独自課税との重複解消や具体的な使い道など課題は山積している。

新税は温暖化対策や国土保全の安定財源として、長野などが創設を求めてきた。与党内では国税として集め、森林面積などに応じて市町村に配分し、間伐な

森林整備に新税議論

17年度改正で政府・与党

どの費用に充てるかといった案がある。昨年末の16年度与党税制改正大綱は、地方の独自課税と同じ「森林環境税」の名称で「新たな仕組みを検討する」と明記。森林整備で市町村の役割を強化し、林業を担う人材育成にも「必要な施策を講じる」としたが、税額や課税方法、導入時期は示されていない。

今月21日から本格化する税制改正作業の中で、市町村が担う具体的な役割など

問題がないように知恵を絞りたい」と話した。卸業者らへの補償内容や方法は来年1月上旬までに決定し、4月以降に支払いを始める計画も示した。補償までの資金繰りを支えるため、つなぎ融資も実施する。

有機食品の認知拡大へ

日本初の展示会 東京で開催



有機農産物をPR、販売する出展者（18日、東京都千代田区）

有機栽培の食品や繊維製品などを展示するオーガニックライフスタイルエキスポが18日、東京国際フォーラム（東京都千代田区）で始まった。2020年の東京五輪・パラリンピックに向けて有機食品の認知度を高め、消費拡大につなげる。19日までで、2万人の来場者を見込む。

オーガニックをテーマにした日本初の展示会で、約170社・団体が出展。有機農産物の生産、加工、販売を進める有機農園モアーク（茨城県つくば市）ブースでは、袋入りのベビリーフなど約10種類の生鮮農産物を展示。特許を取得したニンジンにオレンジ、ショウガを混ぜたジュースの試飲も人気を集めた。ジュースを試飲した30代の女性は「まろやかでおいしい」と高く評価



てれいほしい
現在は同盟 未来は同盟
——日米外交（長野・いちばん星）

会場では、食品だけではなく、繊維製品、雑貨も展示、販売した。中国や韓国などの識者を招いたセミナーも開き、会場を盛り上げた。

和食推進へ

みその魅力発信 東京で食育セミナー

みその普及に取り組みみそ健康づくり委員会は18日、東京都内で「味噌（みそ）の魅力再発見する食育セミナー&試食会」を開いた。参加者は、腸内環境を整えるなどの機能性を学んだ他、みそを使った食育の優良事例を共有。具だくさんのみそ汁は、簡単に栄養が取れるなど、「みその力」を学んだ。

料理研究家の土井善晴さん（59）が講演し「みそは腸内環境を整え、免疫力を高める効果がある。どんな食材にでも合うので、アレンジの幅は無限」と強調した。各地の食育活動が紹介された。広島県で活動する平山友美さん（44）は、みそとだしを混ぜて団子状にしたみそ玉に、野菜パウダーを掛けてカラフルに仕上げるなど、子どもたちに興味を持ってもらう工夫について報告した。平山さんは、「みそは日本人の古くからの食文化で、みそ汁は心をほっと落ち着かせる。子どもたちにみその良さを伝えていこう」と提案した。

大卒内定率が高水準

厚生労働、文部科学両省は18日、2017年3月卒業予定の大学生の就職内定率が10月1日時点で前年比4.7ポイント上昇の71.2%になったと発表した。改善は2年ぶり、内定率は19

中央公聴会 25日に決定 参院PPP特委

は態度を保留していたが、「意見を聞くことは必要だ」として賛成した。熊本地震で開設していた県内の避難所のうち、唯一残っていた1カ所を閉鎖した。最後の避難所を閉鎖した。最後の避難所を閉鎖した。最後の避難所を閉鎖した。

富山の頑固親父がつくる究極の米びつ